

三原市民と市長の「みらいトーク」(第29回) 実施結果

目 的 市長が地域や団体の活動の場に出向き、市民との対話を通じて市政やまちづくりに対する積極的な意見や提案を広く聴き、今後の市政運営に活かすとともに、市民の市政への参画機会の拡充を図ること。

日 時 令和5年10月26日(木曜日) 18時00分から19時30分

場 所 三原市役所 8階 会議室801

テーマ 農業における女性の活躍などについて

参加者 女性農業者(5名)

内 容 各項目について市長が質問し、参加者から対話形式で意見を聴取。

1 現場で直面している課題

【参加者から】

- ・若い人が帰って来ないので高齢化が進み、農業を辞める人が増えている。
- ・辞めた方の水路の草刈りと溝掘りをしなければいけないので大変である。
- ・辞めた方の農地を引き受けているが自分たちにも限界がある。
- ・担い手を呼ぶには、農業を始めるハードルを下げ、継続できる環境を整えるが必要がある。
- ・せっかく思いを持って新規就農しても、経済的に続かないのはもったいない。
- ・夫しか使えない農機具がある。冬だけ雇用したいが難しい。
- ・上記のような場合に三原市の中で人材が共有できると良い。

2 農産物の価格

【参加者から】

- ・経費が上がっているのに農産物の価格が上がらない。
- ・農産物の価格転嫁はニュースになる(目立つ)ので難しい。
- ・生産者と消費者の間で何か価格決定の仕組みを作られているようで、生産者だけが苦しい思いすることが納得できない。
- ・農産物の価格は上がって欲しいが、全部上がると消費者として生活が苦しくなるという難しさがある。

3 仕事と家庭の両立

【参加者から】

- ・米農家は普通のサラリーマンに比べると割と時間が自由に取れるので、子育てもしやすいのではないかと。
- ・子育てをしながら農業をやるのは、かなりしんどい。
- ・夫と同じように農作業をしているのに、私だけが家事をするのはおかしいと思う。
- ・夫にも家事を手伝うように言うべきだと思う。(言わないと分からない)

4 情報共有の場

【参加者から】

- 農協の女性部でテーマを決めてグループを作ることができる。助成金も出る。
- 農業女子プロジェクトに入り、女性が使う草刈機はこれが良いとか、農産物をどうやって盛り上げていくかなど勉強できた。
- 情報交換ができる場は必要だと思う。やり方はみんな違うので、別の人の意見を聞いた方が良くなるかもしれない。
- 牛乳の品質が向上する餌の情報などは、県や市全体で共有できたら良いと思う。
- 機械とかドローンは女性の方が丁寧に優しく扱えると思う。そういう講習会を女性だけで開催してもらえるとありがたい。

5 市民への発信

【参加者から】

- 今は男性女性関係なくなっている。女性も働きやすくなっているということを皆さんに知ってもらい、農業のハードルを下げるような情報共有かできたら良いと思う。
- 学校の職業体験でスーパー等に行くが、私も今の家に生まれなかったら、酪農にふれる機会はなかったと思う。もっと酪農を知る機会が増えても良いと思う。
- 収穫だけが農業ではないので、年間を通してシーズン毎の作業を体験（年4回くらい）できれば良いと思う。
- 三原市には農業を頑張っている人がいるという小学生向けのパンフレットがあっても良い。
- 農業を含め動画で三原市の情報を発信するのも良いかも。

6 その他

【参加者から】

- 三原市には、海も川も山もあって、空港も駅も船もあってすごく充実した町なので、市が率先して食料自給率等に取り組んで、農業が盛り上がり、農業を始める人が増えてくるとうれしい。
- 酪農学園大学に勉強に行った時に女子生徒が多くいた。本当に牛が大好きで、楽しそうだった。この子達こそ大事にして、業界を盛り上げて欲しい。

7 市長まとめ

- 農業の分野において、スマート化やデジタル技術の活用により、女性ができる仕事が増えており、その実態をより多くの人に知ってもらうことが重要である。
- 担い手の確保のためにも、女性が家事をして、男性が外で働くという従来のイメージを変えていく必要があるかもしれない。
- 農業のやりがいや楽しさを広く伝えていければ、農業にチャレンジしようとする人も増えるかもしれない。
- 農業者同士が繋がることは重要であり、是非いろんな活動を行ってほしい。